

# 横浜市インフルエンザ流行情報 2号

横浜市健康福祉局健康安全課    /    横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

### インフルエンザの報告が増加しています。

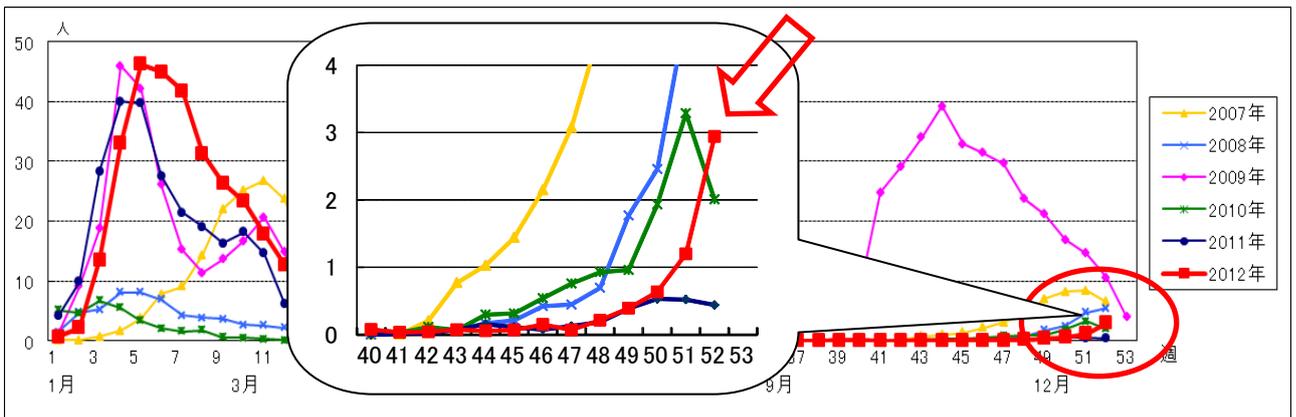
#### 【概況】

横浜市では、2012年第52週(12月24~12月30日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は2.94となり、第51週の1.20<sup>※2</sup>からさらに増加しています。迅速キットの結果では、A型が主流(96.4%)です。全国<sup>※3</sup>でもA型が主流で、A型の内訳ではAH3亜型(A香港型)がほとんどを占めています。

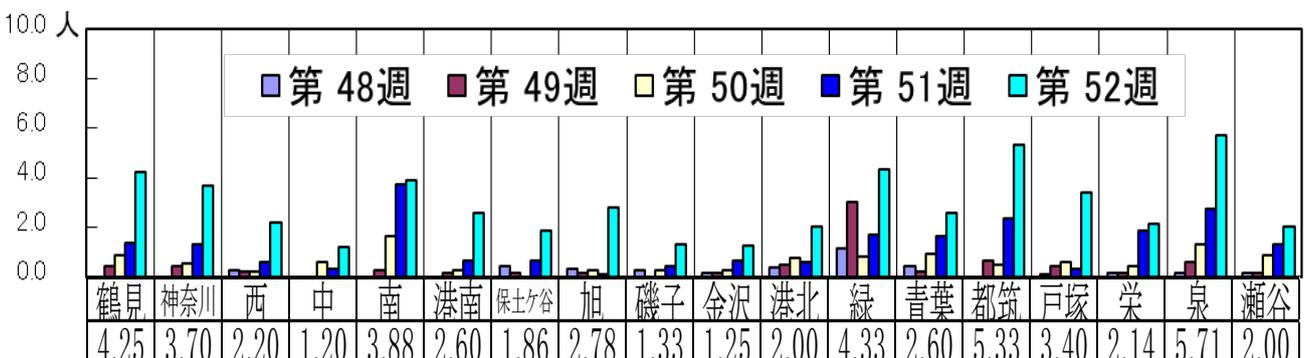
インフルエンザの予防では、手洗い、うがいを心がけ、人混みを避け、規則正しく生活するなどの健康管理が大切です。もしインフルエンザに罹った場合は、早めに医療機関を受診<sup>※4</sup>しましょう。

- ※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
- ※2 第51週1.20・・前回の臨時情報発行時点では1.21でしたが、1.20が確定値です。
- ※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)
- ※4 [平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

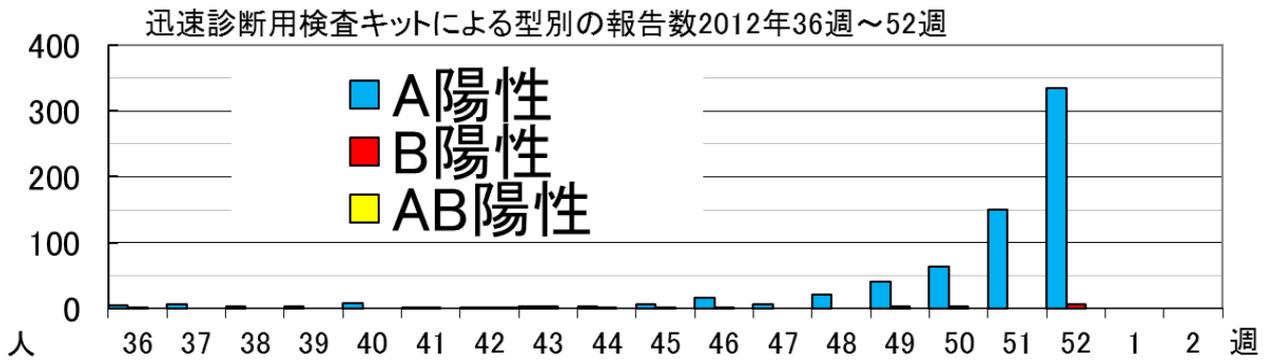
#### 1 市内流行状況: 第52週では定点あたり2.94と、さらに増加しました。



#### 2 区別流行状況: 最も多い区は泉区 5.71 で、次に都筑区 5.33 となっています。

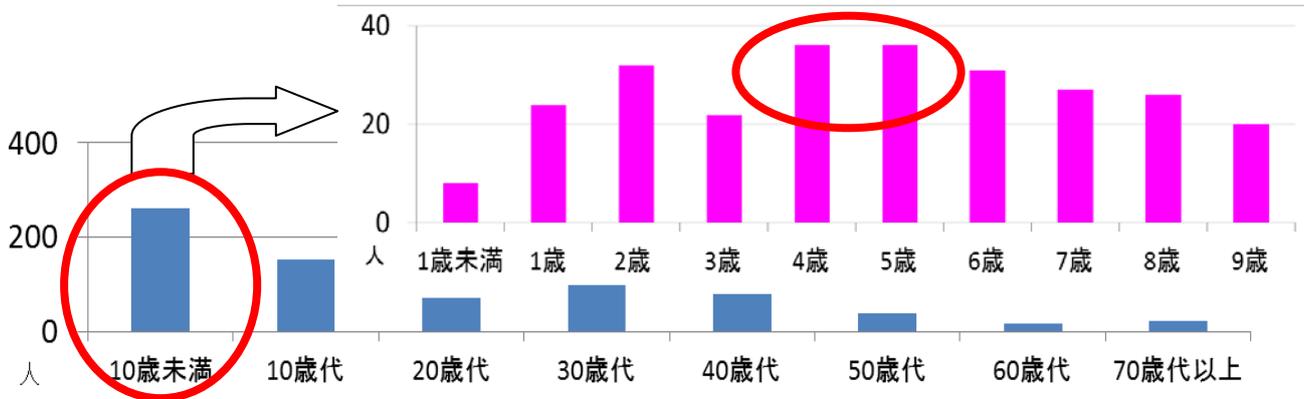


3 迅速キット結果：今シーズン 2012 年第 52 週現在の累計では、迅速キット陽性例のうち、A 型 96.4%、B 型 3.4%、A、B 型ともに陽性 0.1%となっています。



4 市内学級閉鎖等状況：今シーズンはまだ学級閉鎖、学年閉鎖の報告はありません。

5 年齢層別集計：直近 5 週間(第 48～52 週)の累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 4～5 歳で多くなっていました。



6 市内病原体検出状況：今シーズンに入り、市内では病原体定点<sup>※5</sup>から AH3 亜型 11 件、AH1pdm09 型 1 件、B 型(山形系統)1 件が検出されています。全国(1 月 9 日現在)では AH3 亜型(A 香港型)86.9%、AH1pdm09 型 4.6%、A 型(型別不明)0.5%、B 型(ビクトリア系統)3.6%、B 型(山形系統)2.9%、B 型(型別不明)1.4%となっており、流行の主体は AH3 亜型(A 香港型)となっています。

※5 病原体定点・・・病原体検索の検体採取に協力してもらう医療機関(市内 17 か所)

